

医心  
伝心

今月のトピックス

1. 新型コロナウイルス感染症について
2. 院内部署紹介～画像診断科～

新型コロナウイルス感染症5類移行後の現状と注意すべき感染症について

5類感染症になったが、引き続き注意が必要

本年5月8日から新型コロナ感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症へ移行となりました。マスクの着用については個人の判断に委ねられるようになり、法律に基づいた感染者の行動制限や濃厚接触者の特定についても大幅に緩和されました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への位置付け変更は「格下げではない」ということにご留意いただきたいと思います。新型コロナウイルス自体が軽い病気になった、注意が不要な病気になったわけではなく、現在も変異を続けて拡大を続けています。今回の5類感染症への位置付けの変更は「法律上の私権を解除すること」が目的であり、「**注意すれば普通の生活ができる**」と解釈していただきたいと思います。



マスクの着用は個人の判断へ



注意すれば普通の生活ができる



当院では、入院前  
PCRスクリーニング検査を廃止

感染症対策の見直し

5類感染症への位置付け変更により予定入院の患者の方の入院前PCRスクリーニング検査を廃止するなど徐々にこれまでの感染対策の見直しを行っておりますが、医療機関には様々な基礎疾患や重病で来院・入院されている患者の方もいらっしゃいます。ご来院の際は引き続きマスクの着用、手指消毒をお願いいたします。

新型コロナウイルス以外の感染症にも注意

今シーズンは新型コロナウイルス以外の感染症も例年とは異なる流行状況となっております。特に「インフルエンザ」は例年夏季には十勝管内での検出は見られませんが、今シーズンは7月、8月になっても検出がみられており、このような状況は過去10年間で初めてのことです。さらに、「ヘルパンギーナ」や「咽頭結膜熱」、「RSウイルス」「感染性胃腸炎」も過去3年間で最も大きな流行となりました。「**注意すべき感染症は新型コロナウイルスだけではない**」ということもご留意いただき、引き続き感染症対策にご理解ご協力をお願いいたします。



しっかり感染症対策を行い、  
健やかに過ごしましょう

# 院内部署紹介～画像診断科～



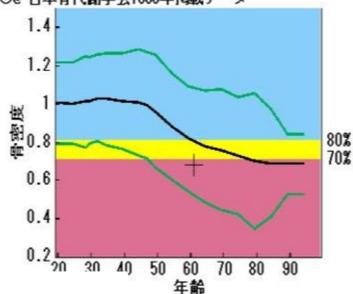
画像診断科は診療放射線技師10名、助手1名の計11名で構成されている部署です。  
放射線（X線）を使用した検査をはじめに、超音波検査やMRI検査も行っています。  
今回は、女性に気にして欲しい検査を紹介していきます。

## ①骨密度測定検査（骨粗しょう症の検査）

人間の骨は、加齢とともにもろくなる（骨密度の低下）ことが知られています。そのため、この検査ではどの程度骨がもろくなっているかを調べます。

女性は中年以降に骨の密度がぐっと減ってしまうため、骨折を起こしやすくなったり、時に寝たきりの原因となることがあります。年に1度程度の検査をお勧めします。

©日本骨代謝学会1996年掲載データ



←検査結果の例

左図の + 印が測定値です。

この場合、+ 印が赤の領域にありますので

かなり骨がもろくなっている状態であることが分かります。



## ②乳房X線検査（マンモグラフィの検査）

乳房に石灰化や腫瘍があるかを調べる検査となります。検査の時は乳房を板で圧迫（うすく平らに伸ばす）した状態で撮影を行います。

当院では、この検査は全て女性技師が対応いたします。



←検査結果の例

○部に病変があります



帯広第一病院 広報誌 医心伝心

発行日：2023年12月11日

発行：患者サポート部会

発行人：山並 秀章

編集長：堀江 撰



編集後記

師走を迎え、厳しい寒さと空気の乾燥から体調を崩しやすい季節となりました。皆様、体調はいかがですか？

私は日々加齢による体の衰えを感じていますので、今回の記事にある骨密度の検査を受けてみようかと検討しています。

今後も皆様に役立つ情報を発信していきたいと考えておりますので、応援の程よろしくお願いします。

（患者サポート部会 広報担当 太田 誠章）